憲教類典

八ノ八

卯
合66
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

憲教類典

四ノ十八下

道中一

卯
115
1

東京圖書館
門 類 函 架 號 冊
卯 一 二五

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

四ノ十八下　通中

正徳二壬辰年三月

東海道ノ内御傳馬
宿
一
公家門跡方並諸
三拾人ニ而足ス
宿人ニ而ハ三拾五人
宿人ニ而ハ四拾人
宿人ニ而ハ四拾五人
宿人ニ而ハ五拾人
宿人ニ而ハ五拾五人
宿人ニ而ハ六拾人
宿人ニ而ハ六拾五人
宿人ニ而ハ七拾人
宿人ニ而ハ七拾五人
宿人ニ而ハ八拾人
宿人ニ而ハ八拾五人
宿人ニ而ハ九拾人
宿人ニ而ハ九拾五人
宿人ニ而ハ百人
宿人ニ而ハ百五人
宿人ニ而ハ百十人
宿人ニ而ハ百十五人
宿人ニ而ハ百二十人
宿人ニ而ハ百二十五人
宿人ニ而ハ百三十人
宿人ニ而ハ百三十五人
宿人ニ而ハ百四十人
宿人ニ而ハ百四十五人
宿人ニ而ハ百五十人
宿人ニ而ハ百五十五人
宿人ニ而ハ百六十人
宿人ニ而ハ百六十五人
宿人ニ而ハ百七十人
宿人ニ而ハ百七十五人
宿人ニ而ハ百八十人
宿人ニ而ハ百八十五人
宿人ニ而ハ百九十人
宿人ニ而ハ百九十五人
宿人ニ而ハ二百人
宿人ニ而ハ二百五人
宿人ニ而ハ二百十人
宿人ニ而ハ二百十五人
宿人ニ而ハ二百二十人
宿人ニ而ハ二百二十五人
宿人ニ而ハ二百三十人
宿人ニ而ハ二百三十五人
宿人ニ而ハ二百四十人
宿人ニ而ハ二百四十五人
宿人ニ而ハ二百五十人
宿人ニ而ハ二百五十五人
宿人ニ而ハ二百六十人
宿人ニ而ハ二百六十五人
宿人ニ而ハ二百七十人
宿人ニ而ハ二百七十五人
宿人ニ而ハ二百八十人
宿人ニ而ハ二百八十五人
宿人ニ而ハ二百九十人
宿人ニ而ハ二百九十五人
宿人ニ而ハ三百人
宿人ニ而ハ三百五人
宿人ニ而ハ三百十人
宿人ニ而ハ三百十五人
宿人ニ而ハ三百二十人
宿人ニ而ハ三百二十五人
宿人ニ而ハ三百三十人
宿人ニ而ハ三百三十五人
宿人ニ而ハ三百四十人
宿人ニ而ハ三百四十五人
宿人ニ而ハ三百五十人
宿人ニ而ハ三百五十五人
宿人ニ而ハ三百六十人
宿人ニ而ハ三百六十五人
宿人ニ而ハ三百七十人
宿人ニ而ハ三百七十五人
宿人ニ而ハ三百八十人
宿人ニ而ハ三百八十五人
宿人ニ而ハ三百九十人
宿人ニ而ハ三百九十五人
宿人ニ而ハ四百人
宿人ニ而ハ四百五人
宿人ニ而ハ四百十人
宿人ニ而ハ四百十五人
宿人ニ而ハ四百二十人
宿人ニ而ハ四百二十五人
宿人ニ而ハ四百三十人
宿人ニ而ハ四百三十五人
宿人ニ而ハ四百四十人
宿人ニ而ハ四百四十五人
宿人ニ而ハ四百五十人
宿人ニ而ハ四百五十五人
宿人ニ而ハ四百六十人
宿人ニ而ハ四百六十五人
宿人ニ而ハ四百七十人
宿人ニ而ハ四百七十五人
宿人ニ而ハ四百八十人
宿人ニ而ハ四百八十五人
宿人ニ而ハ四百九十人
宿人ニ而ハ四百九十五人
宿人ニ而ハ五百人
宿人ニ而ハ五百五人
宿人ニ而ハ五百十人
宿人ニ而ハ五百十五人
宿人ニ而ハ五百二十人
宿人ニ而ハ五百二十五人
宿人ニ而ハ五百三十人
宿人ニ而ハ五百三十五人
宿人ニ而ハ五百四十人
宿人ニ而ハ五百四十五人
宿人ニ而ハ五百五十人
宿人ニ而ハ五百五十五人
宿人ニ而ハ五百六十人
宿人ニ而ハ五百六十五人
宿人ニ而ハ五百七十人
宿人ニ而ハ五百七十五人
宿人ニ而ハ五百八十人
宿人ニ而ハ五百八十五人
宿人ニ而ハ五百九十人
宿人ニ而ハ五百九十五人
宿人ニ而ハ六百人
宿人ニ而ハ六百五人
宿人ニ而ハ六百十人
宿人ニ而ハ六百十五人
宿人ニ而ハ六百二十人
宿人ニ而ハ六百二十五人
宿人ニ而ハ六百三十人
宿人ニ而ハ六百三十五人
宿人ニ而ハ六百四十人
宿人ニ而ハ六百四十五人
宿人ニ而ハ六百五十人
宿人ニ而ハ六百五十五人
宿人ニ而ハ六百六十人
宿人ニ而ハ六百六十五人
宿人ニ而ハ六百七十人
宿人ニ而ハ六百七十五人
宿人ニ而ハ六百八十人
宿人ニ而ハ六百八十五人
宿人ニ而ハ六百九十人
宿人ニ而ハ六百九十五人
宿人ニ而ハ七百人
宿人ニ而ハ七百五人
宿人ニ而ハ七百十人
宿人ニ而ハ七百十五人
宿人ニ而ハ七百二十人
宿人ニ而ハ七百二十五人
宿人ニ而ハ七百三十人
宿人ニ而ハ七百三十五人
宿人ニ而ハ七百四十人
宿人ニ而ハ七百四十五人
宿人ニ而ハ七百五十人
宿人ニ而ハ七百五十五人
宿人ニ而ハ七百六十人
宿人ニ而ハ七百六十五人
宿人ニ而ハ七百七十人
宿人ニ而ハ七百七十五人
宿人ニ而ハ七百八十人
宿人ニ而ハ七百八十五人
宿人ニ而ハ七百九十人
宿人ニ而ハ七百九十五人
宿人ニ而ハ八百人
宿人ニ而ハ八百五人
宿人ニ而ハ八百十人
宿人ニ而ハ八百十五人
宿人ニ而ハ八百二十人
宿人ニ而ハ八百二十五人
宿人ニ而ハ八百三十人
宿人ニ而ハ八百三十五人
宿人ニ而ハ八百四十人
宿人ニ而ハ八百四十五人
宿人ニ而ハ八百五十人
宿人ニ而ハ八百五十五人
宿人ニ而ハ八百六十人
宿人ニ而ハ八百六十五人
宿人ニ而ハ八百七十人
宿人ニ而ハ八百七十五人
宿人ニ而ハ八百八十人
宿人ニ而ハ八百八十五人
宿人ニ而ハ八百九十人
宿人ニ而ハ八百九十五人
宿人ニ而ハ九百人
宿人ニ而ハ九百五人
宿人ニ而ハ九百十人
宿人ニ而ハ九百十五人
宿人ニ而ハ九百二十人
宿人ニ而ハ九百二十五人
宿人ニ而ハ九百三十人
宿人ニ而ハ九百三十五人
宿人ニ而ハ九百四十人
宿人ニ而ハ九百四十五人
宿人ニ而ハ九百五十人
宿人ニ而ハ九百五十五人
宿人ニ而ハ九百六十人
宿人ニ而ハ九百六十五人
宿人ニ而ハ九百七十人
宿人ニ而ハ九百七十五人
宿人ニ而ハ九百八十人
宿人ニ而ハ九百八十五人
宿人ニ而ハ九百九十人
宿人ニ而ハ九百九十五人
宿人ニ而ハ千人
宿人ニ而ハ千五人
宿人ニ而ハ千十人
宿人ニ而ハ千十五人
宿人ニ而ハ千二十人
宿人ニ而ハ千二十五人
宿人ニ而ハ千三十人
宿人ニ而ハ千三十五人
宿人ニ而ハ千四十人
宿人ニ而ハ千四十五人
宿人ニ而ハ千五十人
宿人ニ而ハ千五十五人
宿人ニ而ハ千六十人
宿人ニ而ハ千六十五人
宿人ニ而ハ千七十人
宿人ニ而ハ千七十五人
宿人ニ而ハ千八十人
宿人ニ而ハ千八十五人
宿人ニ而ハ千九十人
宿人ニ而ハ千九十五人
宿人ニ而ハ千百人
宿人ニ而ハ千百五人
宿人ニ而ハ千百十人
宿人ニ而ハ千百十五人
宿人ニ而ハ千百二十人
宿人ニ而ハ千百二十五人
宿人ニ而ハ千百三十人
宿人ニ而ハ千百三十五人
宿人ニ而ハ千百四十人
宿人ニ而ハ千百四十五人
宿人ニ而ハ千百五十人
宿人ニ而ハ千百五十五人
宿人ニ而ハ千百六十人
宿人ニ而ハ千百六十五人
宿人ニ而ハ千百七十人
宿人ニ而ハ千百七十五人
宿人ニ而ハ千百八十人
宿人ニ而ハ千百八十五人
宿人ニ而ハ千百九十人
宿人ニ而ハ千百九十五人
宿人ニ而ハ千二百人
宿人ニ而ハ千二百五人
宿人ニ而ハ千二百十人
宿人ニ而ハ千二百十五人
宿人ニ而ハ千二百二十人
宿人ニ而ハ千二百二十五人
宿人ニ而ハ千二百三十人
宿人ニ而ハ千二百三十五人
宿人ニ而ハ千二百四十人
宿人ニ而ハ千二百四十五人
宿人ニ而ハ千二百五十人
宿人ニ而ハ千二百五十五人
宿人ニ而ハ千二百六十人
宿人ニ而ハ千二百六十五人
宿人ニ而ハ千二百七十人
宿人ニ而ハ千二百七十五人
宿人ニ而ハ千二百八十人
宿人ニ而ハ千二百八十五人
宿人ニ而ハ千二百九十人
宿人ニ而ハ千二百九十五人
宿人ニ而ハ千三百人
宿人ニ而ハ千三百五人
宿人ニ而ハ千三百十人
宿人ニ而ハ千三百十五人
宿人ニ而ハ千三百二十人
宿人ニ而ハ千三百二十五人
宿人ニ而ハ千三百三十人
宿人ニ而ハ千三百三十五人
宿人ニ而ハ千三百四十人
宿人ニ而ハ千三百四十五人
宿人ニ而ハ千三百五十人
宿人ニ而ハ千三百五十五人
宿人ニ而ハ千三百六十人
宿人ニ而ハ千三百六十五人
宿人ニ而ハ千三百七十人
宿人ニ而ハ千三百七十五人
宿人ニ而ハ千三百八十人
宿人ニ而ハ千三百八十五人
宿人ニ而ハ千三百九十人
宿人ニ而ハ千三百九十五人
宿人ニ而ハ千四百人
宿人ニ而ハ千四百五人
宿人ニ而ハ千四百十人
宿人ニ而ハ千四百十五人
宿人ニ而ハ千四百二十人
宿人ニ而ハ千四百二十五人
宿人ニ而ハ千四百三十人
宿人ニ而ハ千四百三十五人
宿人ニ而ハ千四百四十人
宿人ニ而ハ千四百四十五人
宿人ニ而ハ千四百五十人
宿人ニ而ハ千四百五十五人
宿人ニ而ハ千四百六十人
宿人ニ而ハ千四百六十五人
宿人ニ而ハ千四百七十人
宿人ニ而ハ千四百七十五人
宿人ニ而ハ千四百八十人
宿人ニ而ハ千四百八十五人
宿人ニ而ハ千四百九十人
宿人ニ而ハ千四百九十五人
宿人ニ而ハ千五百人
宿人ニ而ハ千五百五人
宿人ニ而ハ千五百十人
宿人ニ而ハ千五百十五人
宿人ニ而ハ千五百二十人
宿人ニ而ハ千五百二十五人
宿人ニ而ハ千五百三十人
宿人ニ而ハ千五百三十五人
宿人ニ而ハ千五百四十人
宿人ニ而ハ千五百四十五人
宿人ニ而ハ千五百五十人
宿人ニ而ハ千五百五十五人
宿人ニ而ハ千五百六十人
宿人ニ而ハ千五百六十五人
宿人ニ而ハ千五百七十人
宿人ニ而ハ千五百七十五人
宿人ニ而ハ千五百八十人
宿人ニ而ハ千五百八十五人
宿人ニ而ハ千五百九十人
宿人ニ而ハ千五百九十五人
宿人ニ而ハ千六百人
宿人ニ而ハ千六百五人
宿人ニ而ハ千六百十人
宿人ニ而ハ千六百十五人
宿人ニ而ハ千六百二十人
宿人ニ而ハ千六百二十五人
宿人ニ而ハ千六百三十人
宿人ニ而ハ千六百三十五人
宿人ニ而ハ千六百四十人
宿人ニ而ハ千六百四十五人
宿人ニ而ハ千六百五十人
宿人ニ而ハ千六百五十五人
宿人ニ而ハ千六百六十人
宿人ニ而ハ千六百六十五人
宿人ニ而ハ千六百七十人
宿人ニ而ハ千六百七十五人
宿人ニ而ハ千六百八十人
宿人ニ而ハ千六百八十五人
宿人ニ而ハ千六百九十人
宿人ニ而ハ千六百九十五人
宿人ニ而ハ千七百人
宿人ニ而ハ千七百五人
宿人ニ而ハ千七百十人
宿人ニ而ハ千七百十五人
宿人ニ而ハ千七百二十人
宿人ニ而ハ千七百二十五人
宿人ニ而ハ千七百三十人
宿人ニ而ハ千七百三十五人
宿人ニ而ハ千七百四十人
宿人ニ而ハ千七百四十五人
宿人ニ而ハ千七百五十人
宿人ニ而ハ千七百五十五人
宿人ニ而ハ千七百六十人
宿人ニ而ハ千七百六十五人
宿人ニ而ハ千七百七十人
宿人ニ而ハ千七百七十五人
宿人ニ而ハ千七百八十人
宿人ニ而ハ千七百八十五人
宿人ニ而ハ千七百九十人
宿人ニ而ハ千七百九十五人
宿人ニ而ハ千八百人
宿人ニ而ハ千八百五人
宿人ニ而ハ千八百十人
宿人ニ而ハ千八百十五人
宿人ニ而ハ千八百二十人
宿人ニ而ハ千八百二十五人
宿人ニ而ハ千八百三十人
宿人ニ而ハ千八百三十五人
宿人ニ而ハ千八百四十人
宿人ニ而ハ千八百四十五人
宿人ニ而ハ千八百五十人
宿人ニ而ハ千八百五十五人
宿人ニ而ハ千八百六十人
宿人ニ而ハ千八百六十五人
宿人ニ而ハ千八百七十人
宿人ニ而ハ千八百七十五人
宿人ニ而ハ千八百八十人
宿人ニ而ハ千八百八十五人
宿人ニ而ハ千八百九十人
宿人ニ而ハ千八百九十五人
宿人ニ而ハ千九百人
宿人ニ而ハ千九百五人
宿人ニ而ハ千九百十人
宿人ニ而ハ千九百十五人
宿人ニ而ハ千九百二十人
宿人ニ而ハ千九百二十五人
宿人ニ而ハ千九百三十人
宿人ニ而ハ千九百三十五人
宿人ニ而ハ千九百四十人
宿人ニ而ハ千九百四十五人
宿人ニ而ハ千九百五十人
宿人ニ而ハ千九百五十五人
宿人ニ而ハ千九百六十人
宿人ニ而ハ千九百六十五人
宿人ニ而ハ千九百七十人
宿人ニ而ハ千九百七十五人
宿人ニ而ハ千九百八十人
宿人ニ而ハ千九百八十五人
宿人ニ而ハ千九百九十人
宿人ニ而ハ千九百九十五人
宿人ニ而ハ二千人

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

正徳二壬辰年三月

一 道中往還之後之日日條目如日有
之御深おもて来之猥なるなる様に御
申合せ相理き旅人立りとも御不
和非かゝる後御目安以就中改而
之後も入用なるも御下に御下上を猶
以不持無之御前に格すも成は格に
いたし即ち日如は人事改而人
事は負数なるも雖御前に人事割書数

なるも改而此上無益之人事割書以前も
格見せ此来之上曲事たるべき事
道中旅籠物かゝる後唯今之旅人に
よりあてがゝし後中是は而も見之由相
おゆゑは向後理き高賣執かたも中
合請負する無之故は後望不仕時之
無相を考無之前に四度年前兵隊之
は其の事を表請御中不日無之格に
不仕は無し此執に皆きあらゝし後

中至り者もあるし旅人より其所出
らば官屋年寄とあるべきを
出法事

一 自分加者助ゝより其係目を省き不
持し後もはて其旨を遣ひ者より可得
し内しあるべき料をれ又もあるとし
其助ゝし者者へ呼ぶ此後あると望
停止たる程き事

一 者も助ゝしも其係目に遣ひ不明し

後もあるしはて助ゝ分を遣て得し
内しあり年論を及ひ持ひつきへ事
滞陰のあるべき事

一 旅人のあるより此上非分し仕方もあるし
節を者より其遣て得し後に到り
旅人し非分に其國窮仕し者於
中心を者にして者にあるべき事
如き於後道中助不法し後にあるべき段
旨は仰出其係目差出之日猶又如此

以日條目并此紙者御之四屋場に張紙
に志るしこれ助の村にも写しさせ
者助の大望可有其道犯に来れ
かしそ可有曲事者也
正徳二年辰三月　道中奉行

正徳二壬辰年三月
差上申説文之事

此度道中往還之儀に付日條目并
添日條目日後取扱日條目日ヶ條
を書き請事あり段下申し旨に御
を畏以前物貴目段之儀并助の村
にて人等鍋し儀に付毛頭依怙裏負
不仕物毎急を入り度非分之儀を
日産掛て不仕以旅人を不申及助の分
内にまて始終を云申相成事皆仕
可受事

一 貫目改之儀荷物添て可改所ニ而ハ往
還之荷主共ニ而荷主共ニ而荷物附
替候而荷物貫目を乃せ重き荷物ニ
而無改候ニ付ニ付候ニ付文無之旅人
与對し御定ニ候得ハ不仕候事
於脇ハ亨ニ而も付可仕候得
條自然此趣相背候もの有之ハ
急度可被仰付候由外ニも大切ニ而何か
之由事ニも有之候 御伝ニ而此證文如

件

正徳二辰年三月

右ハ道中改所ニ而相守可申候

證文

東海道
品川 庄甲 半律

中山道
板橋 治馬

正德二壬辰年四月廿八日

覺

下総國

印幡（イン ハ）郡　元 印幡

葛餝（カツシカ）郡　元 葛飾

近江國

栗本（クリ モト）郡　元 栗太

飛後國

三毛（ミケ）郡　元 三池

備中國

上方（シヤウホウ）郡　元 上房

賀都（カヤウ）郡　元 賀陽

大和國

城上（シキ カミ）郡　元 式上

城下（シキ モト）郡　元 式下

信濃國

更級（サラシナ）郡　元 更科

伊那（イナ）郡　元

諏方郡
相模國
餘綾郡
上野國
緑野郡
勢多郡
越後國
刈羽郡
上総國

元諏訪
元陶綾
元緑埜
元勢田
元苅羽

奥濃郡
周准郡
下野國
塩屋郡
美濃國
葉栗郡
河内郡
安宕郡
渋川郡

元奥隅
元
元塩谷
元羽栗
元安宕郡
元

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

和泉國
和泉（イワシ）郡　元泉
豊後國
國崎（クニサキ）郡　元國東
播磨國
加東（カトウ）郡　元
有度（ウト）郡　元有渡
要倍（アベ）郡　元

此國いたし以來御拙ことも異なり
手付は沒ひ故に先を書
御来事下度此國相究ひ之旨新譜
家々不揃の後此手付之國を究事
由飯守市之御分来れ
正德二年辰四月廿八日
此方付市之御分来れ由平岩
以外狭き故此沒ひ

正德二壬辰年九月三日　元益津

駿河國
益頭（マシツ）郡

かし直さ候事候事ニ付ふ益郡分本ハ

正德二年辰九月三日

正德三癸巳年九月

兼掛下賣買之儀ハ下諸山掛賣買相極
分之蒲國諸事中數少付或ハ不殘

三四賣買ハ不殘用捨及五賣買ハ
不急ニ相傳ニ町ニ附也月しく
ハ勢史河内つけ煙硝之儀ハ賣買
相定有之ニ付蒲國諸事中數少付
お兼掛下之ニ惟し此賣買ハ全用
捨ハ相成ハ都合掛賣買ハ
しも成ハ買煙硝ハ尾張ハ河内ニ賣買外ニ蒲國
諸所中數少付一式都合二三賣買
ニ相改ハ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

東山道　山陰道　山陽道
いつれも山の字を成セントよこれは東山
道の内は中節の所にはゆへ古来
より中山道と申事にて
海道と申事は
東海道　南海道　西海道
いつれも海にして所をかけたれは西海
にと申候へは
下野国　甲斐国

此道を海にと申事の如く隠す
事をもちて行へは
日光路中
甲州路中
なし地ニ為て我は
正徳六年申四月十七日
享保二丁酉年四月二日
西之郡代以来と有へ仮名は云也

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1　　ガラス使用

自分両天之節會
御免之後豐見

一 唯今之時鷹聖 御成百天之日御
菅笠 御免之日自分之會
御免之後は夫々會事之時路すね
若如下申は當分之陣不申天氣如何
之存は節之 御成先は會事
之下申は先天氣 雖然之會不及
支度は上聖増上寺 何方にて

御成之節之も大日所之本如何下は

享保十二巳年二月廿六日

一 東海路者人馬不足故別る助人村之
及難後は之日此後者之人馬不足之
極之 御出は餘計之人馬之不差足
若之は依之在書請大名之外往来之
者向後万用之人馬之故先鶴若
之世 堅御急度お掃下之事は若か

享保十四己酉年

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一 此ハ如何ニ此胃大勢人集リ其ハ
ヨリ之ニ居シ持ニ以テ申ニ此也
敬云志ハ是也 後ニハ居シ此ニ相当大造
居シ持シテ申ニ付ニ此胃ニテモ代皮
而ハ勿論小強而シ多ニ宿前ニ代皮
より下ニ申ニ居ニ此也 其ニ命家来ニ人
悲シ下ニ此ニ事
一 銅料ニ非ニ葉青草葉銅ニ由
頂ニ助青草ニ在ニ胃ニ也 有シ喰ニ由ニ此

青草ニ居シ而ハ非ニ葉ニ用ニ定
いたし下申ニ但青草百ニ三百斤
程宛毎日銅ニ由ニ胃ニ積リ在ニ此
ニ如シ宛支度ニ在ニ事
一 象銅ニ吾水シ後清水ニ銅ニ胃清
水ニ居シ而ニ有ニ下申ニ水ニ支度
法ニ在ニ事
一 胃ニ漸シ川ニ居ニ人多ニ居ニ此ハ
無梅後ニ由ニ胃ニ家ニ所ニ河リシ川ニ

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

下ケ札

但し見物之儀は後不苦候

享保十四己酉年

象京着前觸書

覺

一 先段江戸居住幕府之象言少都合幕
象江戸節之後見物之者不苦候旨
相觸候事之儀を相心得候事
人象江戸之儀は候へ共江戸之
者之儀は相違無之候間見物
之儀は不苦候間江戸
表之儀は猶以厳敷相心得
可申候事

横竹を入子供は猶以厳敷事

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1　　ガラス使用

従其方引込て申渡も非常之節ゟ持手
ニ而も指揮可仕事

一 象通り節人留めし役援携より相勤
人留ハ平常組之者ニて相勤ハ火ハ御
掛上り候ニ付送迄之淨外ニ象畫人留可仕

一 象畫麗し自より通り留中西ハ烏丸東ハ
河原町ゟ南ハ新町より北ハ四川迄

一 積自身番ニて可仕事

一 象通り留中右筆淨ゟ清和院口迄

同寺町筋御車道ニ寄不申常通り
花畫宿ゟ西殿筋より相可仕事

一 象畫中之町之内寺町淨法華
之時拍停止之事但撞鐘時之太鼓拍
子木五町四方共無之事

一 象通り留中西ハ堀川限東ハ河原限
南ハ三條限北ハ鞍馬口迄之内ハ火
ハて自身番町ゟ相定ハ町人
是外ニハ撞人象畫御淨花湯表門

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

元文二丁巳年

条勅交代ニ外ニ陣中ニ住来ニ帝本陣
ニ而ニ相極ニ旅籠ニ残ル事ニ八百残ニ
お極ニ内を於ニ陣(陣)ニ残ニ中ニ相極
ニ相四残ニ残て減し右後ニ旅籠
とも所ニ不ニ有ニ以て服者ニ暫ニ中ニ相
とやうけ平支ニ後要ニ成ニ故ニ是ニ派
川けを立ニ更ニ旅籠ニ風とも後迷惑ニ由
お変ニ早竟来ニ之ニ事と

存ニ自然右体ニ残ニ極ニ陣中ニ
可運ニ来ニ之ニ之ニ急ニ可ニ中ニ付ニ
右ニ極ニ面ニ重ニ居ニ中ニ夢ニ之ニ通ニ今ニ極ニ存ニ
望

元文二丁巳年

元文五庚申年閏七月

一 隠賣女不仕ニ極ニ之ニ候ニ前ニ分ニ
お弱ニ極ニ不ニ出ニ深遠ニ味定ニ見

可被申付候

一 女踊子と申売女之類有之由、是又先達而申渡候処、今以地借店借迄吟味之上、地主江町中申付候趣ニ

踊子之儀も猥ニ無之様振廻町中申付候

一 茶屋給仕女不相成者ハ振舞之儀、先年も触候処、頃日猥ニ振舞候由、是又猥かましく無之様振廻町中申付候

一 寺社門前ニ而隠売女之儀、弥遂吟味、猥ニ不致様、急度心掛、地主遂可申付候

一 道中筋之儀も飯盛女之売女猥ニ無之様、享保三年相触候振ニ而可相守候

申聞 七月

右之寺社之家町触之趣、可被入念候

寛保三癸亥年八月十日

御目付江

趣意道中奉行江も申達之、諸旅籠屋之外重き商物附置不申中ニ出候処延引並

後中奥州後中往来之諸侍相定之外
重き荷物附送りしも有し旨お受ひ依
之於道中節に成東海後之通武器
千住右衛門岸都宮右衛門前ゆへ荷物
黄目お段に置ゝに置て其後を意に

八月

延享二乙丑年六月廿九日
本多中務大輔殿後

道中右衛門之後を往来之者ゝ移れ其者
御しもの集にて成難段節成て是之事
ゝに在に於て於し内ゝ盗賊出附ゆ
し悪黨者成て是しに於て宿中より
百捕謝也に事御之外稀成る事ゝに
是を悪黨を捕人は代度に事ひ成るも
吟味ゝ有右衛門御之呼也されて若を江戸
も百呼を遥留難用後お掛に後を難
後と存し百捕に後を一向不可掛盗人

追掛候事済候様ニ仰渡候由承知候
白洲ニ而申渡ニハ代官役請ニ而吟味致
百姓共ヲ掛り候ても御中困窮ニ不相
成様ニ可致旨代官ニ申渡候事ニ候旨経度
右之通承候て早く下之候而
候代官役所ニて済方も捕遣ス者有之
者共も不甚候旨候處捕ニ而ハ無之
此者共解候上ニ而御中指入候事と申追
掛事済候体ニ成候旨追々承知候て

可有之由事ニ候
於て此通寄ニて可致候事ニ候
丑六月

延享四丁卯年三月

覚

一 御用ニ而罷出候事ニ而無之 御来客合
ニ外除人ヲ多く遣之候由承及候茶し
落中并在ニ通リ用人除人ヲ出させ候儀

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

二十日を下ハ公相者也
如し通正徒二辰年相解ハ京ニ近年猥りと
相成ハ極ニ相変ハ自分ニ右し相様文急
度相当ハ極ニ不仕ハ若此時後相当者
有しハ相違ニハ以味し上智メ下中ハ事

以上

三月

如し通正相解ハ

寶暦二壬申年十二月

伏見住置し西ニ伏見旅宿ニ節家
来とも他也等ハ猥成様ニ有し相
聞有しハ旅中ニ後別ニ入念た
様し後有し日ニ旅宿ニ外者
望く他也ハ不仕諸事猥ニ無し様ニ
急度下ハ中ハ
如し相伏見住置し西ニ下ハ事ハ

寶暦八戊寅年三月十日

少城和泉守殿目録

定

一 所用之件道中往来之西之即来京人
等之外深人等多お立ちましお受ひ前之
も中達に通ひ無用之深人等也させ以後堅
て為停止ひ其年貢数之外之て入人
等之分ちは定之後深無お遣ふ事
お拂ひ世下申ひ事

御用ニ付ル往来ニ而ニ或ハ在ル或ハ
諸大名想ル道中往来ニ不来人ニ別
ニ役人ニ事ニ而ハ御来ニ即人馬
并債人ニ入ル様ニ定ニ世債人ニ
分ハ債務ニ而ニ拂ニ人ニ別役ニ
者ニ屋物ニ於残委細遂ニ依ニ極ニ
中付ニ外ニ家来又ハ二庭ニ者ニも
私ニ人ニ加ル竜也ニ拂ニ拂ニ也ニ
人ニ即ニ其ニ以ハ一切ニ居ル事ニ

問屋物ニ於ニ即ニ極ニ於ニ中ニ以ニ
ニ者ニ在ル者ニ通ニ云ニ故ニ者ニ中ニ後ニ
往来ニ而ニ家来并ニ来ニ二庭ニ人
足ニ在ル近年ニ主人ニ極ニ成ル中
ニ非分ニ仕方ニ或ハ猥ニ手代ニ
人足ニ在ル事ニ人足ニ方ニ出ニ其
ニ罷免ニ或ハ自分ニ持ニ通ニ道ニ
も人足ニ為ニ持ニ者ハ為ニ竜ニ
りニ債務ニも不拂ニ又ハ宿ニ者ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

以来者体之後無之様可致如排此
者之條之可致者也先生者我朝之所謂
所近年道中者御之時定之外人馬多若
也其外旅人不法之事大臣之者不申
及助之村之者及国家所由有之以
付穿鑿之上云　御此以来自治者而之
執急者可致者之縦組中有記并東来不
法之以上も其所を設人主人之職者下
所成以前可有可致者也

寛暦八寅年二月

寛暦八戌寅年十一月六日

元柳田納戸所に　菅沼下野守
都合所申往来之面之人馬先駕可致
之後可以家先駕無之面之也有
於宿之人馬其支其上日之為用意
助之村之人馬駕之南以前駕其之人

寶暦八戊寅年十一月六日

日目 陸前ハ

菅沼日野守

都ニ道中往来ニ西ニ人ニ先鋒ニ下ニ

ニ後ニハ陸先鋒ニ西ニ成ニ見ニハ故

於都ニ人ニ差支ニ上日ニ為用ニ意

助ニ村ニハ人ニ鋒ニ為ニ君ニ陸ニ

人ニ事ニ故ニ為助ニ村ニ及難ニ成ニハ

故使ニ日以来ニ都ニ往来ニ百法用ニ

ニ道中ニ往来ニ命ニ都ニハ人ニ先鋒

ニ為ニ為ニ以来ニ

都ニ往来ニ一百即用ニ為ニ陸中ニ往来ニ

命ニ都ニハ人ニ先鋒ニ無ニ故ニ先

鋒ニ道中ニ事ニ行ニ也ニ成ニ無ニ故ニ

故ニ知ニ成ニ城ニ田ニ擬ニ事ニ故ニ知ニ意

ニ志ニ須ニ同役中ニ也ニ不ニ御事ニ而論ニ

ニ同役中ニ成ニ是ニ又ニ日ニ結ニ不ニ御事ニ

十一月

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一先年[illegible]先觸し候[illegible]
[illegible]分通申[illegible]
[illegible]事

一[illegible]町人[illegible]
[illegible]事

一[illegible]
[illegible]事

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人[illegible]先觸し候[illegible]
元方

寶三月

[illegible]方[illegible]
西九

寶暦十二壬午年七月

一東海道往来[illegible]
田宿より四日市宿[illegible]
[illegible]
[illegible]通[illegible]

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

昭和二乙酉年九月廿日

明治氏ヲ法務局ニ第一回ノ出頭ヲ命ジ
始メテ村ニ於ケル公証官式ノ事務ヲ開始シ
且ツ従来ノ習慣ニ依リ人民ノ要求ニ応ジ
事務ヲ取扱ヒ尚其事務ヲ遂行スル事ニ付テ

明和四丁亥年十一月廿二日

其事ヲ命ジ別紙書抜ノ通リ公証人ノ
年給金ヲ以テ通ハシ尚ホ其事務ヲ
開始シ尚ホ其事務ヲ遂行スル為メ
存在ヲ許ス者ニ付テハ其ノ者ニ
シテ従来ノ慣習ニ依リ事務ヲ遂行
スル者ニ付テハ

西八月

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

已来し類様懐中々何来ら有果ゆゑも
其所に葬ゆ様本等的に其所し
事既成て親類相随来者得見しゆて
支配し役所に詰し其所に有之
其所に不足勿論宗旨分行倒有果
死生に節し所斗も同様し事
如し通常其出様第一痛苦成者加成
其内にまして継送るまおまくは見文
急度仕法通常申候

一 都ら如し類詰入用其事係二十卯年
五海所に有的ゆ色病人無其所分
指出ゆて様別所有ゆて者別村別
にいたす申し
如し通常有者也
亥十月

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

右之通

巳十二月

安永五申年十二月廿六日

松平伊賀守殿渡

御目付江

東海道往来之者共右宿々を追放
勢田より四日市迄東海道之分ニ以

来之者より大津宿先触ニ載て
有之宝暦十一年年月御書付ヲ以
御沙汰之通不残東海道之分ハ
東海道ニ相成候ニ付先触之分ハ
東海道之先触ニ載有之候而も東海道之儀
之儀先触ニ載無之分ハ先触ニ載候
ニ付右等之廉ニ而ハ
右之通相心得追而相達候間
右日付ニ而相達候

安永九庚子年六月十日

一 御用之儀来之西之来之来之雇之者ハ御遣ハ候之手代り人足賀籠為正ハ故人ニ為ハ増又ハ新之口論ハ茂ハ之日以来旅行之節先鋪ニ為之ハ重ニ来之事ハ遣ハ先鋪之外人ニ為ハ用之節ハ何足人足何人ニ為ハ課為家来事ハ形之書付ニ為ハ遣ハ事ハ遣ハ会人ニ為正ハ事ハ遣ハ引替候

請ハ縦家来之内ニ中付ハ事ハ遣ハ之ハ人ニ為ハ正ハ故ハ者松右衛門ハ取ハ何之上ニ者之ハ中御ハ事為ハ御ハ及ハ通ニ遣ハ勿論為之ハ紙ハ又ハ成ハ事ハ御ハ之ハ紙ハ存ハ為之通ニ請ハ向ハ成通ニ遣ハ事ハ事ハ上

子六月

大屋太郎
安藤弾正少弼

天明二年寅年九月十日

古田侍郎ヲ殿ニ御

日目ニ付ル

道中宿ニ着不持之候ニ而ハ
驗人ヲ以テ御請之宮屋年号ヲ二百疋
三百疋も正味又ハ誰ニ而ハ附添
無ク候ニ而ハ御ニ而ハ御ニ
者不届之仕方ニ而ハ其宮屋年号ヲ
呼ニ而ハ其宮人ヲ成ル用ニ成ル事

事ニ御習ニ而ハ同屋年号正味ニ
成ル不及中誰ニ而ハ附添無ク
事も為ニ止ル事ハ御中ニ而ハ
遠ニ而ハ而ハ御ニ上ニ而ハ
其ニ而ハ事

如ニ而ハ御ニ而ハ処ニ来ル懐ニ而ハ
ニ御ニ不届ニ而ハ其ニ而ハ
夜中掛ニ而ハ人ヲ正味ニ而ハ
文不持ニ而ハ此事ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

三月十九日ニ中年七ヶ年之内ニ
人ヲ賃ニ雇四割増之積請取ル極ヲ渡ル
習ヲ以テ生ニ意ル
九之地ニ印ヲ以テ其所ニ
三月

天明四甲辰年五月廿三日
酒井石見守殿ニ渡ル

日光ニ於中ニ御事其地ニ於中ニ在ル御之内国
家ニ於ケル日当辰六月朔日ニ来ル三月海
日ニ中年七ヶ年之習人ヲ賃ニ雇一統ニ
割増積請取ル極ニ而之ニ印ヲ渡ル
平意ル
九之地ニ印ヲ以テ其所ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

天明四甲辰年六月廿五日

酒井石見守殿目録

道中往来之西之於七箇之名法之後在
之様可有先年分前之者所近
年猥ニ成道中七箇之外人ニ
多指出其外旅人不法之事とも見之者
之助以村之事ニ及難成以由大変以留
先年分前之所　御出ニ付其所之紙張者

一

其所ニ於ニ御前ニ於ニ月十日之通急
度中付何人ニ於ニ張之所札ニ差
出可申ニ

一

殺人可之後之前日ニ於ニ前之日ニ於ニ前
割之事来ニ不及者七箇之日ニ於ニ盤之枝宛
渡し之先解ニ可ニ加ニ罷人ニ見ニ於ニ於ニ盤
其之者ニ於ニ渡ニ可ニ取ニ者ニ於ニ渡之者
連ニ家来之庭之者ニ於ニ成ニ者ニ盡ニ中ニ変
之通行之節ニ不及排病先又ニ痛所ニ

出立差紙ハ朝七ツ時より
時ニ至ル迄ニ差紙ヲ以テ
ニ而探索ヲ遂ケ探索ニ
候ハヽ其ノ段ヲ申立候
事

一　出立差紙ハ朝七ツ時より
時ニ至ル迄ニ差紙ヲ以テ
ニ而探索ヲ遂ケ探索ニ
候ハヽ其ノ段ヲ申立候
事

一　出立差紙ハ朝七ツ時より
時ニ至ル迄ニ差紙ヲ以テ
ニ而探索ヲ遂ケ探索ニ
候ハヽ其ノ段ヲ申立候
事

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

人を急ぎ候て者御座候事
御仕事
如し執印後急ぎ候て御座候御帳中文
成ハ家事ニ不法ニ候しかとも其儀
役人主人ニ成候ニ候成ハ君其旨ニ候存
とも也
六月

天明五ヒ巳年六月廿日
酒井石見守殿御
廿日御出
道中御宿ニ来穀ニ候ニ上流行病ニ候
人ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候
御尾川ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候
巳七月朔日より来卯六月ニ候ニ候
人ニ候ニ候四割増中仙御助ニ候ニ候
御ニ候ニ候水田掛ニ候ニ候ニ候ニ候

是又南巳七月朝日より来れ子六月ゆへて
七ヶ年に宮人の為貸渉の割増請求の儀
前に御申渡の宮の事を以て
如し此印に可ゆ事を解は
巳六月

天明七ヶ未年五月廿五日
井伊兵部少輔殿御渡

近年前に国家に上此節来穀別る
事也故本陣旅籠屋が諸方事又及難
儀に此諸家事外注来に因て前に
振合る旅籠渉お拂旅行に事我
是に此本宮尤に可ゆ自然と注来に
是支に我ゆ事成事に来穀諸色高
也に因て其勘弁に就て諸に相場を懇
に也旅を以旅籠渉お拂ゆ旅行は
如し此ゆ事を解は

天明八戊申年六月十日

鳥居丹波守殿

青山大猪亮殿

日渡

大月は

日月は

甲斐文玉山梨郡巨摩郡都留郡鎌河国

志太郡益津郡長谷郡出郡郡第土

郡鎌東郡村々前々神子修験共

滞法来之前近ヶ頃太郡々村々境ヲ

禁制之札を建様多非人とも書付並

神子修験村内出入不為致に修行

斗之義無之一統仲ヶ間親類志ニ之

者通路不来成由来変に神子修験とも

ニ鳴候より諸々修行れ渡並鳴笑

無之に条前々之通法事ニ為致に為

又修行ニ事よせ悪事致にて不許

出に事

右之趣は判松能とも御家は代表より

通達事務之日

申六月

於之通達事務所

實政元巳百年四月

松平越中守殿

青山大膳亮殿　同役

大目付

御用之道中往来之西之

御来帯人馬之外添人馬多之日由

於中之前之後中達之通之用之人馬

為其心後望之停止之

御来帯自数之外之入人馬之時定

之賃銀無者達之後者拂之以中事

御用之往来之西之或者在中或者

諸大名勢之道中往来之本人馬割

一 後人見し事ニ以前者は朱印人ニ
并賃人ニ可入様ニ為ニ立賃人ニ可ニ
賃様ニ無ニ遠ニ相拂以様人ニ別後人ニ屋
携ニ相残書細遠以来以様ニ申候先
願ニ外し人ニ可ニ為ニ見ニ候て去ル辰年
相願以通ニ無忘却ニ申候を以為ニ
賃様ニ急度相拂以様家ニ来ニ雇ニ
以下ニ申候ニ者ニ者ニ者も有ニ通
ニ候ニ旨申候以事

一 往来し西し東ニ来ニ并来し雇し宜
とも近年ニ人の稽威を以て申て
非分し法方ニ或ニ猥ニ手段ニ
人足を示威ニ自分ニ不相道ニ
人足ニ為ニ相ニ申ニ如ニ
賃様を不拂又ニ者ニ者ニ對し
非分し様とも申ニ者ニ者ニ者申
旨ニ以ニ様とも様を有し以申ニ
不由ニ知ニ以ニ申候ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

寛政元己酉年四月十日

物之届並於奉行所ニ出役之上明
味糺候及會所吟味致候而者自由ニ相成候ハ
往来之旅人ニおゐて者右役人共ゟ掛訴
出入之筋旅籠屋おゐて取計し不法之
儀於有之者其奉行所ニ訴出候ハヽ急度
可遂吟味可存候
一 川之渡越之儀川会所ニ而相掛り川
越人足共之儀ニ而是迄も定之通之処
近年者川越之もの其方ニ而過分之旅人
共欺かし賃銭酒手等ねたり取
旅人ニ茂川会所ニ掛り候而も其ニ付右
又者川越ニおゐて旅人共不届之儀も御川
越之もの共ニ而共貯候ニ付渡方ニし
尤以渡方ニ付候而者以来者右往来之
旅人川会所ゟ相掛人足共ニ而定川越
可致以来極之儀賃銭之外酒手ねたり
候欲又者此以後旅人ニ茂共取計候而
様仕度候　御付候様出役中渡候旨

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

年号不知

囚人持参者吹挙文

囚人其人百姓玉造宮村より者吹挙
ニ乃其囚人平ニ食を喰せ不致落相
ニ仕給ニ者ニ而所之者審を糺し其
訳ニ無理平ニ清而已急度可送庵也

亥七月二日

豊後

延享四丁卯年三月晋

雅楽助殿

加賀守殿

加賀中

覺

清月作

一 旅人し田宅を破り無法成事しは
て弱者し私を以て政事不可用にて
而し飲食し役人は達を脱役人旅人中
吏其上ニ吳錢ニ及ひて其所田畝江戸
表ニ非也ハ極て仕事
一 其代支而し後も私し私ニ唯し取引
事
一 町人は無産を借役し武家ニ無物
ニ於ては此後有し由ニ吏ハ自分望

無用多る理ニ非事
一 全年宿し悪黨し者見し親郷ニ
者とも以債錢を称ふ永旅人し
酒りに於械酒手に称ふ永ハ由自
分ニ大体し者於是し其所ニ捕
れき即領を其代支私領を領ニ地
所ニ置て下也事
一 人馬債錢し後 即來事其用し
外を下ニ排事し條也有し日々時ニ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1　　ガラス使用

卯
115
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

憲教類典

四ノ十九 関所
四ノ二十 囚獄

卯
115
1

東京圖書館

門	類	函	架	號	冊
		卯		一	二五

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

元和二丙辰年八月

一 船海之定

一 白井海

一 厩橋

一 五料

一 一本木

一 葛和田

一 门俣

東京圖書館藏

四ノ十九
四ノ二十
関所
囚獄

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

元和二丙

一 白井澄

一 厩橋

一 五料

一 一本木

一 葛和田

一 門俣

ワノナ九 ワ三ノ
ワ二十 囚獄

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用　挟み込み物

一 古河
一 房川渡
一 栗橋
一 関宿之内大船渡境
一 七里渡
一 府川
一 神崎
一 小見川
一 松戸

一 市川
一 未定船場之外 猥ニて猥り
往来之者ニて渡る
一 如人ノ手負ニ而 不審者いつ是
の船場ニ而も 当無事ニ江
戸ニ至して 但酒井侍従
手船ニ而 ハ無
義ニ通ニ
隣ニ里かゝの事ニ舟渡

一 不可渡し置所女人于今在之若
者ハ置主并給人又ハ代官ニ
以手形給人又ハ女人ニ可相渡
事

一 酒井備後守手形雖無之来
舟渡し并女人手負又ハ不審成
者一切不可通事

一 惣別江戸ゟ出識者ニ不改事

右條々相守此旨違背之族可處厳科
者也

元和二辰年八月

對馬守
大炊頭
備後守
上野介
雅楽頭

寛永八辛未年九月廿七

覚

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

小佛
小岩
市川
新口
川俣
大戸
雄水
柴
五科

金町
松戸
房河浴
中田

寛永十三丙子年八月廿
定　筆根

一　往来之内案役不可之前言筆記申

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1
ガラス使用

一 をんなきんせいたるへし

一 寺坊にて召置者寺坊戸をひ
らかせ下女並寺坊女房せ
下るへし

一 此寺以後修行者大名高家し
旅僧意し則寺庵より
其所法度之通可被仰付
寄る事堅可相制者也

右條々可相守者也 仍執達如

如件
寛永十二年八月廿日 東行

寛永十三子年九月十七日

上野国

子科

定

一 当寺新 并由過之趣下 当寺住持

し前にて笠原帯を如くへき
事

一 家相にて上綱る面にて家相
の戸を引しく一通し但し
如家相を當にし家居家にし
如に見せて家無る

一 公家の諸大名家の面に前を
前かとより其所にて
所に限し自然家當し義見らも
下の格別なり

右條に下の事也仍執達如
件

寛永十三年九月十七　本行

寛永十七庚辰年九月十三

上野国
大戸